

❗ 工作機械用治具の組み立て計測システムの開発

工業用機械では欠かすことのできない治具の製造過程において、設計段階の CAD データと、組み立て後の完成品との差異を画像処理でチェックするシステムの開発。

本 業 の 動 向 に つ い て

工作機械用治具、機械部品(ハンドルパーツなど)、アルミ加工品(フレーム、フェンスなど)の製造販売を主要業とする。他に CAD、CAM 等ソフトウェア開発や、ギフト雑貨の販売もしている。

他社と同様にリーマンショック以降は厳しい状況であった。その後はやや立て直しを見せた業績だったが、欧州経済の不安定や円高の煽りを受け、現在はまだ好調とはいえない。来期以降は更なる回復を見込んでいる。

公 設 研 究 機 関 と の 連 携 事 業 に つ い て

連携先公設研究機関の名称

岐阜県情報技術研究所

所在地

岐阜県各務原市テクノプラザ一丁目 21 番地

連携内容

治具の設計段階の CAD データと、組み立て後の現物との差異を計測するシステムの開発。設計段階の CAD データとカメラで撮影した現物画像とを照らし合わせ、設計通りに組み立てられているか検査する。自社からは 2 名の担当を置き対応した。

連携した動機やきっかけ

数年前、サポイン事業を検討した際に他者からの紹介で公設試験研究機関の存在を知った。その後、同機関が画像処理技術に長けていることも判り、委託へと至った。

連携の効果

まだ情報収集の段階で、開発については今後検討していく。企業と公設試験研究機関のお互いが持つ優れた技術や情報を相互にやり取りできているので相乗効果が生まれ、より良い成果をあげられると期待している。

連携して最も効果のあったこと

公設試験研究機関への課題技術支援という格好では

あったが、費用の負担は無く済んだ。また、書類の申請なども簡単に済ませることができ、スムーズな対応ができていていると感じる。

連携して最も困難だったこと

数年来の付き合いがあったので、特に困難なことは見当たらなかった。

連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては、民間の他企業との連携となると多少はやりにくい部分も出てくるが、こちらは公的な機関ということで気兼ね無く利用できる。また、自社が持ち合わせない技術や施設を利用できることも大きなメリットである。

連携に際しての注意、アドバイスなど

費用の面では負担が少なく済むことと、機関の持つ技術は役に立つものが多いので、非常に利用価値がある。

公 設 研 究 機 関 と の 連 携 で 行 政 に 望 む 支 援

予算の関係か、最近は施設や研究者などの規模が少なくなっているように感じる。より多くの企業が活用できる様に、PRの場を増やすなど活性化に努めていきたい。

会社概要

設 立 : 1961 年 3 月 (創 業 1935 年 10 月)

資 本 金 : 4 億 3,000 万円

従 業 員 数 : 215 名

U R L : <http://www.imao.co.jp/>